

平成21年度神奈川県有機農業実態調査結果報告書

1 調査目的

神奈川県有機農業推進計画（平成21年4月策定）に基づき県内の有機農業者の実態を詳細に把握し、今後の有機農業推進の参考とする。

2 調査対象とする有機農業者

調査対象とする農業者は、通年で有機農業に取り組んでいるほ場の面積が10a以上又は過去1年間の有機農業による農産物の販売金額が15万円以上の者とした。

調査の基準時点は、平成21年4月1日現在とした。

3 調査内容

従事者の年齢・人数、有機JAS認定取得の有無、栽培品目・面積、販売金額・販売先、生産方法の特徴、有機農業を始めた動機など。

4 調査方法

(1) 調査依頼

ア 有機農業団体

有機農業団体（9団体）を経由して、有機農業団体構成員である農業者の方にアンケートの回答を依頼した。

イ 有機JAS認定事業者等

平成20年3月末までに旧有機認定事業者一覧（農水省公表）として掲載された事業者（6名）にアンケートの回答を依頼した。

ウ 上記ア、イ以外の有機農業者

普及指導組織、有機農業団体からの情報提供に基づき（8名）、アンケートの回答を依頼した。

(2) 回答方法

ファックス、電子メール、郵送等により農業振興課あてに送付することとし、回答期日は平成21年9月末日を目途とした。

(3) 補足調査

アンケート回収後に不明の点がある場合は、当課からの電話や、農業技術センター職員の訪問等により確認した。

平成21年9月環境農政部農業振興課実施
(現 環境農政局農政部農政課)

5 回答状況

(1) 回答者の市町村別状況

回答者数（2団体含む）は、90件あり有効回答数は85件であった。

市町村	回答数	有機農業面積(a)	販売金額 万円
横浜市	8	488	1,416
川崎市	1	*	*
相模原市	4	330	800
鎌倉市	1	*	*
藤沢市	4	777	1,510
小田原市	46	2,283	7,432
三浦市	1	*	*
秦野市	4	200	670
厚木市	1	*	*
大和市	1	*	*
伊勢原市	1	*	*
南足柄市	4	209	420
二宮町	2	*	*
大井町	2	*	*
山北町	4	176	210
愛川町	1	*	*
計	85	5,702	15,308

※ 回答者が1人の場合は、内容について公表してしまうと個人の情報を特定してしまう恐れがあるので、ホームページに掲載する時は秘匿（「*」で表記）とする。

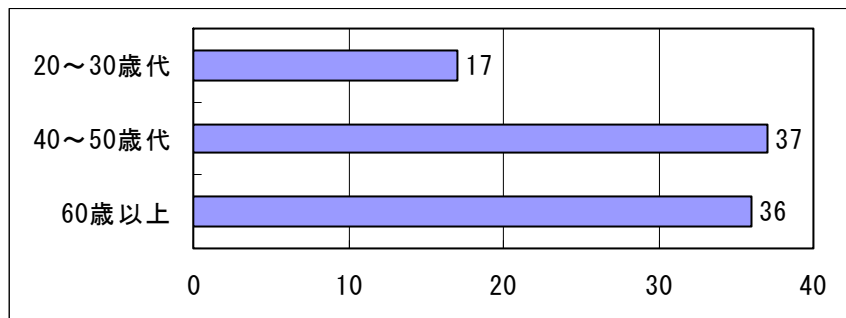
6 結果概要

- 従事者の年齢は、40～50歳代が最も多く、次に小差で60歳代が続いた。（表1）
- 従事者数は2名が最も多かった。（表2）
- アルバイト等の雇用及びボランティア等の受入れは、「無」が半数を超えた。（表3、表4）
- 半数以上の人がある有機 JAS 認定を受けていなかった。（表 5）
- ほ場の面積及び有機農業面積は 50a 未満が最も多く、作物では果樹が最も多かった。（表 6、表 7、表 8）
- 生産方法の特徴と工夫は、「緑肥作物の利用」が最も多く、次に小差で「たい肥等の施用」が続いた。（表 9）
- 有機農業の取組年数では、10 年以上が最も多く、農地の所有形態は自己所有が最も多かった。（表 10、表 11）
- 販売金額では、「100 万円以上 500 万円未満」が最も多かった。（表 12）
- 有機農産物の主な出荷先は消費者への直接販売が最も多かった。（表 13）
- 有機農業を始めた理由としては、「安全な食品を生産したいから」が最も多かった。（表 14）

7 結果

(1) 主な従事者の年齢（複数回答）

表 1

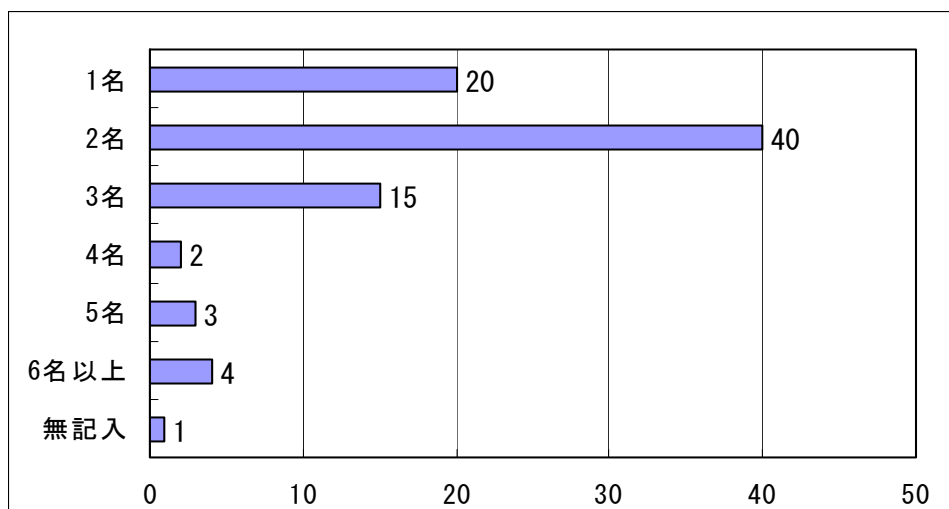


(戸)

(2) 従事者について

ア 有機農業従事者数

表 2



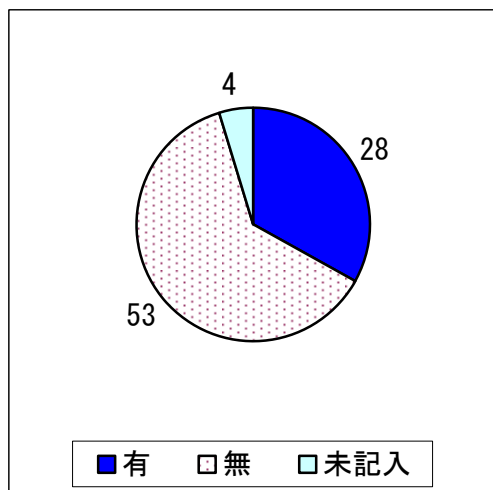
(戸)

イ アルバイト等の雇用の有無

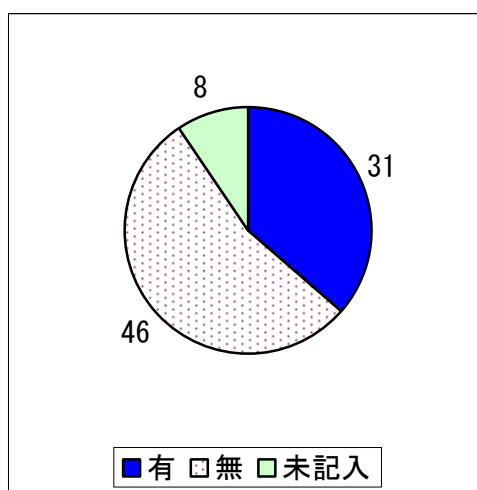
表 3

ウ ボランティア等の受入れ有無

表 4

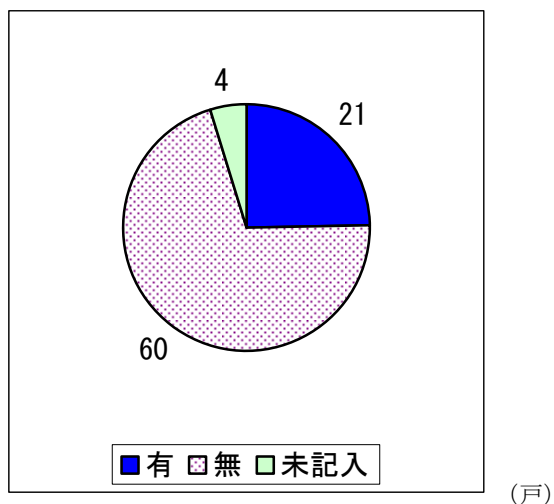


(戸)



(戸)

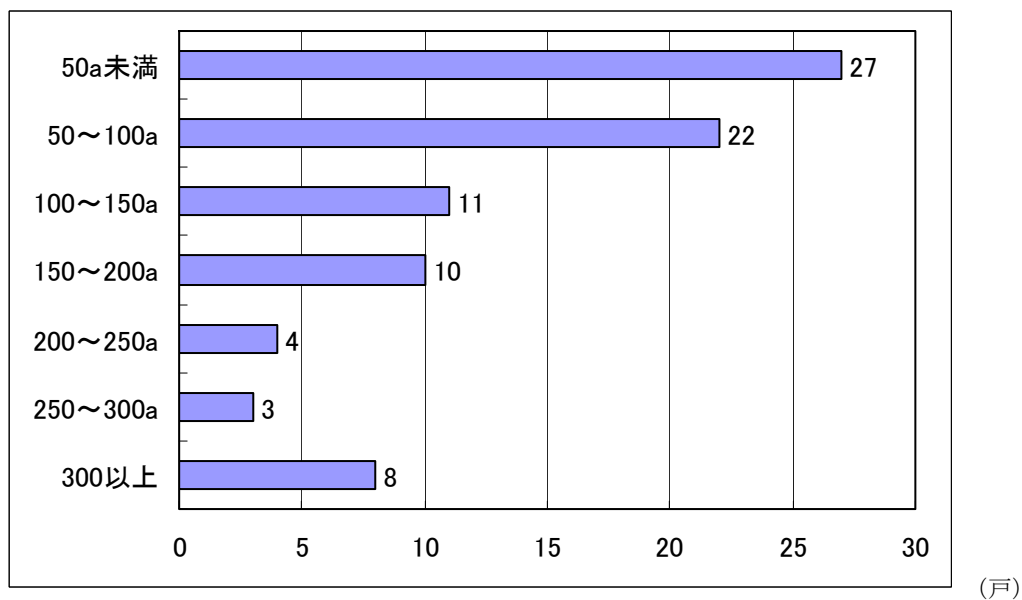
(3) 有機JAS認定取得の有無 表5



(4) 栽培状況

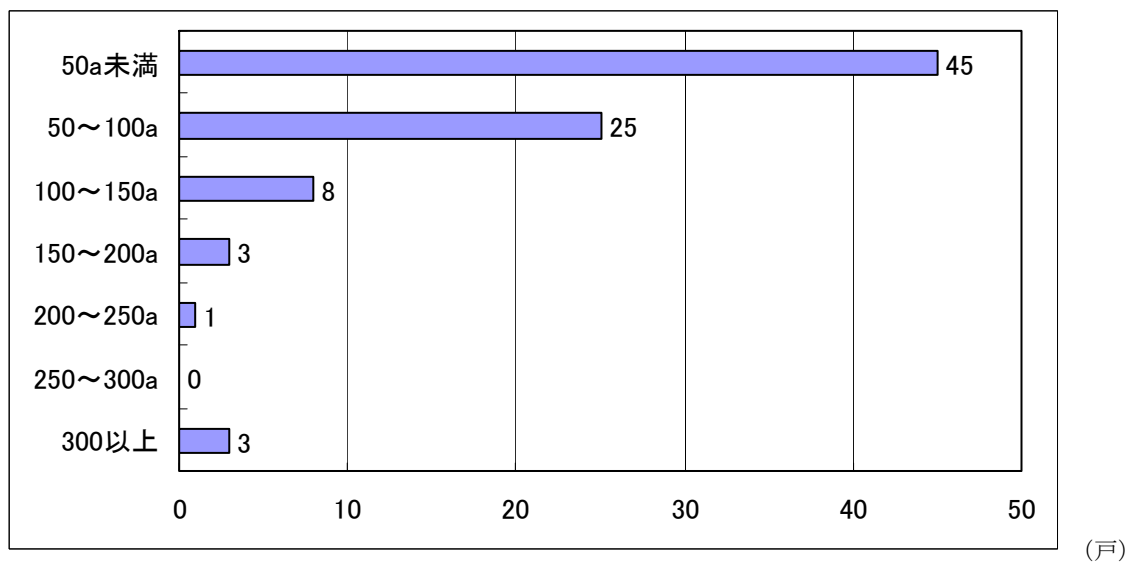
ア 経営全体のほ場面積

表6



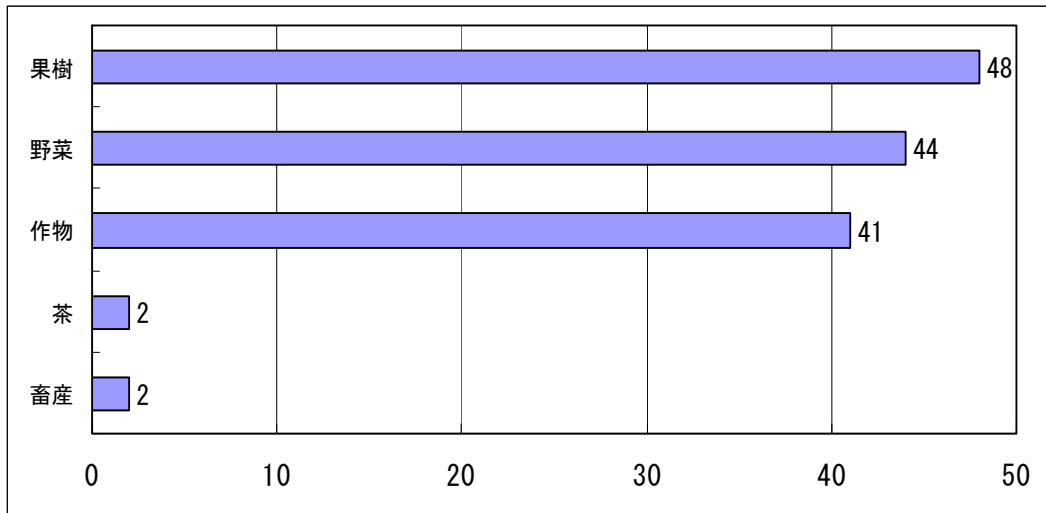
イ 有機農業面積

表7



ウ 有機農機農産物（複数回答）

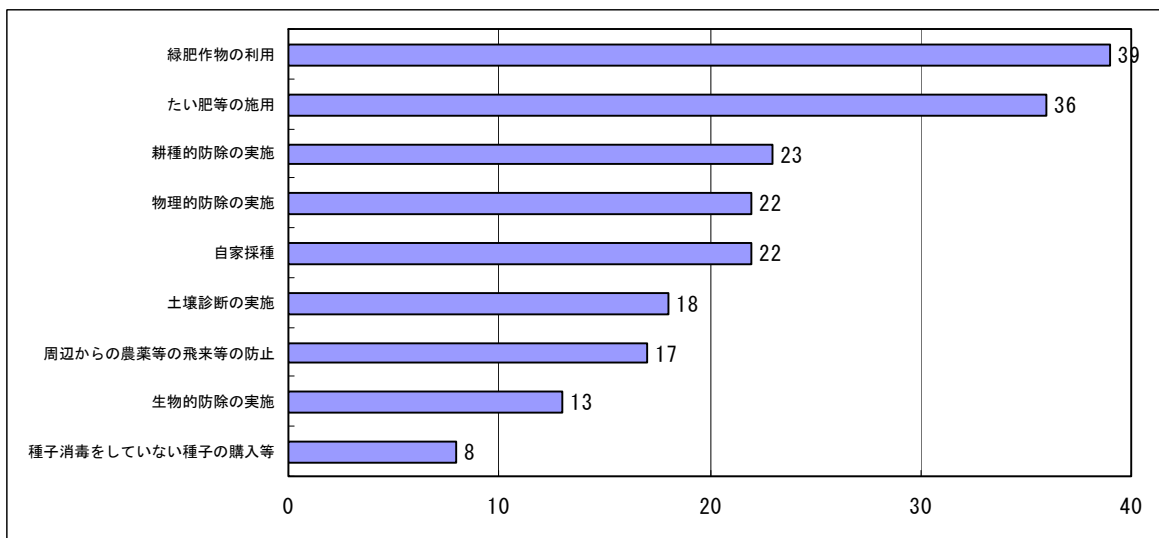
表 8



(戸)

エ 生産方法の特徴と工夫している点（複数回答）

表 9

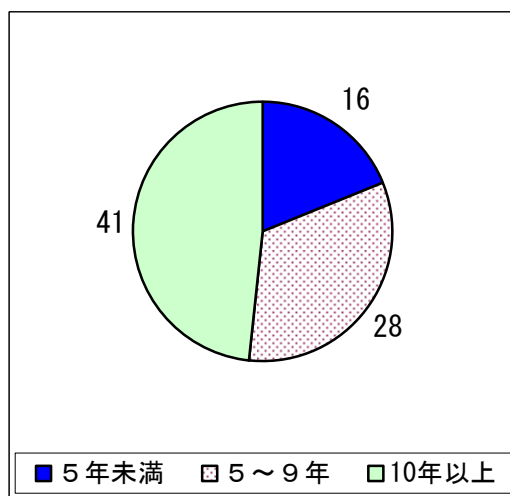


(戸)

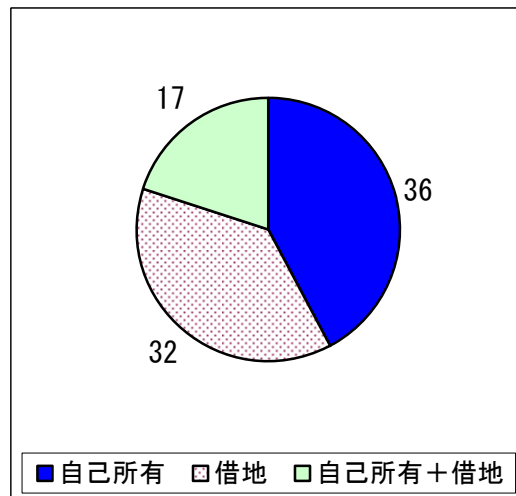
(5) 有機農業の取組年数

表10 (6) 農地の所有形態

表11



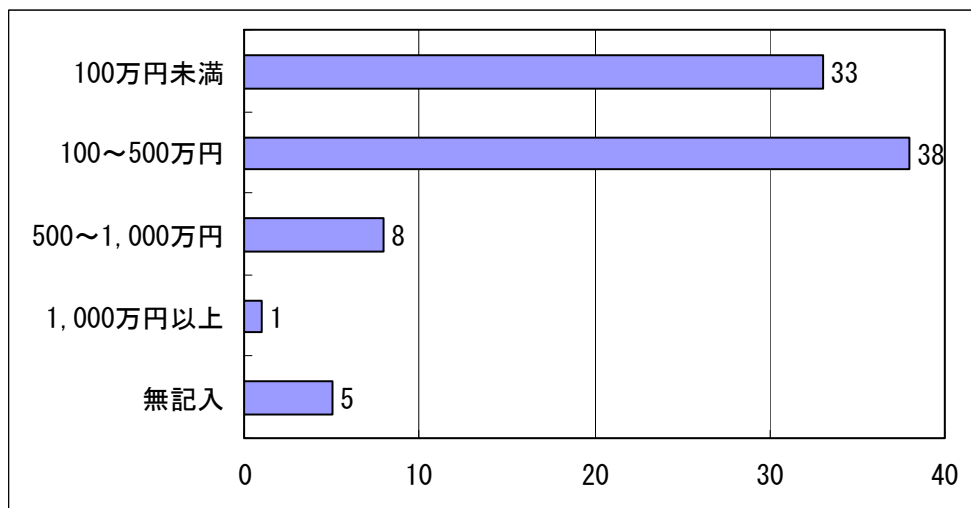
(戸)



(戸)

(7) 有機農業による販売金額

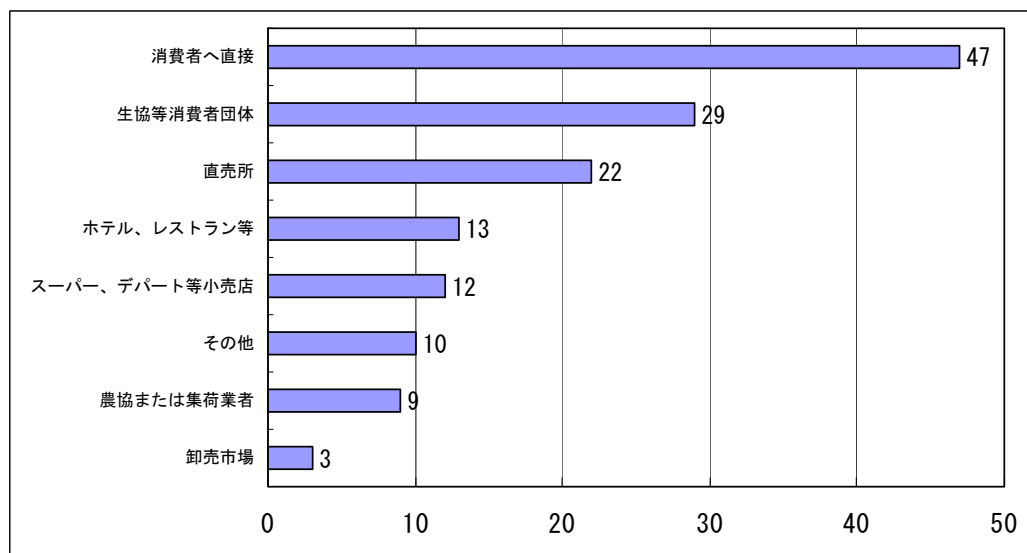
表12



(戸)

(8) 有機農産物主な出荷先 (複数回答)

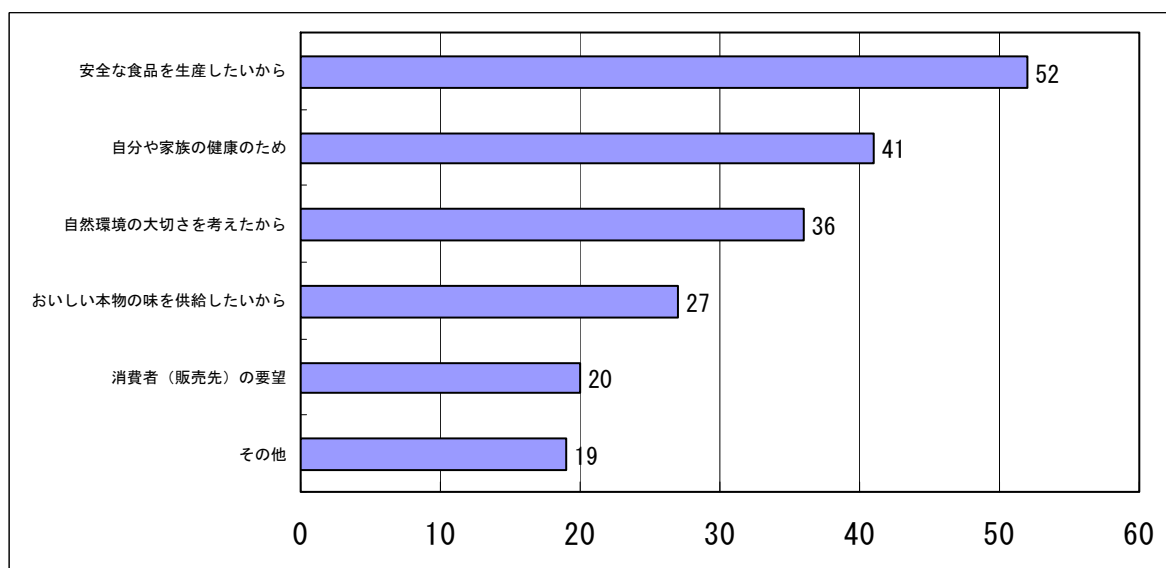
表13



(戸)

(9) 有機農業を始めた理由 (複数回答)

表14



(戸)

(10) 有機農業に取り組む中での励み、こだわりについて（主な自由意見要約）

- 次世代の子供たちのため。
- 自分や家族消費者にも農薬等から汚染させないため。
- 都市化や宅地化が進む中、近隣の農業への理解が必要。
- 消費者に直接販売していると直に声を聞くことができ励みになる。
- 消費者は、無農薬、有機栽培の作物であると知ると長年買いに来てくれる。
- 安全な食品を生産したいから。
- 緑肥、有機質肥料を使うことにより土を健康にして病気に強い作物を作る。
- 可能な限り自分の食物は自分で生産する。
- 消費者への直接配達でお客様とコミュニケーションがとれること。
- 有機農業の規模を拡大していきたい。
- お客様からの感謝の声励み。
- 自分達で作った作物で元気になって、幸せになる人が増えたらいいと思う。
- お客さんや地域農家との交流。
- 農業が好きな人が農業をやれるような仕組みが必要。
- 経営的に厳しい。
- 国等からの援助のない有機農業はこれからの発展は難しい。
- 有機農業は21世紀エコロジー型社会の要。
- 周辺の人や環境に悪影響を与えていないという安心感。
- 生計をたてられるようにしたい。

(11) 有機農業の推進に関しての意見、要望について（主な意見要約）

- 消費者に理解してもらえる取組が大切だと思う。
- 遺伝子組換え品種の栽培を制限して欲しい。
- 新しい技術等の情報を流して欲しい。
- 有機農業推進法が制定されても進展がない。有機栽培のリスクを支えるセーフティネットが欲しい。
- 荒廃農地が増え農業自体が消滅しつつある。有機農業も含め農業の新しいシステムを早急に構築することが必要だと思う。
- 有機だから何でも良いわけではなく、出来るだけ自然にあるもので対応したほうが良いと思う。
- 有機農業同志の交流会、研究会及び勉強会などを開催して欲しい。
- 消費者の意識を掘り起こすことに力点を置いて欲しい。
- 有機農業が日本の伝統農業である。
- アンケートだけで調査をしたことにしないように。
- 有機農産物を食べ物の価値だけでなく、環境への貢献も高く評価し、推進して欲しい。
- 新規就農者の農地賃借には困難が伴うのでそれを軽減して欲しい。
- 慣行レベルでの学術的な調査・研究を行政に期待する。
- 販売する時の統一表示ラベルや消費者が一目で分かるブランド名
- エコファーマーには優遇制度があるが有機JAS認定者にはない。
- 指導体制を整備し、有機農業を広めて欲しい。